

**オムロン株式会社 2016年度2Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)**
(2016年10月27日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 年間配当額予想を据え置いたが、配当性向をコミットする方針から変更したのか？

A: 方針は変えていない。キャッシュの状況などを総合的に勘案し、今回は期初の年間配当額予想68円を据え置いた。

Q: 自社株買いを実行しなかった理由は？

A: 自社株買いの実行を判断するにあたり、時期など硬直的なルールはない。今後も余剰キャッシュなどの水準を考慮し、機動的に実行していく。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: アプリケーションパッケージによる成果は上がってきているのか？

A: 振動を抑え高速に搬送する制振制御など、複数のアプリケーションがお客様に好評。特に、注力している4つの業界では成果が上がっている。

Q: 中国におけるデジタル業界以外の注力業界では、どの程度の事業成長を実現しているのか？

A: 自動車、食品、社会インフラ業界においても、おしなべて二桁以上の事業成長を実現している。

Q: エリア別の景況感はどうですか？

A: 中国は好調で、欧州は回復の方向性にある。日本は円高の影響により、全般的に改善投資の抑制が続くが、自動車の新規投資は比較的堅調に推移すると見ている。

◆ 本社直轄事業 (その他事業) 関連

Q: バックライト事業が減損に至った背景は？

A: ミドルレンジの中国製スマートフォン市場が拡大し、オムロンが狙うハイエンド市場の縮小が想定以上に進んだ。また、単価の下落により収益性が悪化し、事業計画を変更するに至った。その結果、会計ルールに則り減損を実行した。

Q: バックライト事業は今後も継続するのか？

A: 今後も事業を継続する。構造改革を進め、最適化していく。

Q: 中国のスマートフォン市場が伸びているが、これはバックライト事業の販売数量の拡大に繋がらないのか？

A: 数量拡大に繋がると考えている。但し、単価の下落が大きく、収益への寄与は限られている。

Q: バックライト事業の設備は他の事業部門に転用できなかったのか？

A: 一部の設備は転用した。

Q: 環境事業は堅調に推移しているのか？

A: 堅調に推移している。蓄電ハイブリッドシステムの販売が計画を上ブレしており、パワコン全体の落ち込みをカバーしている。
